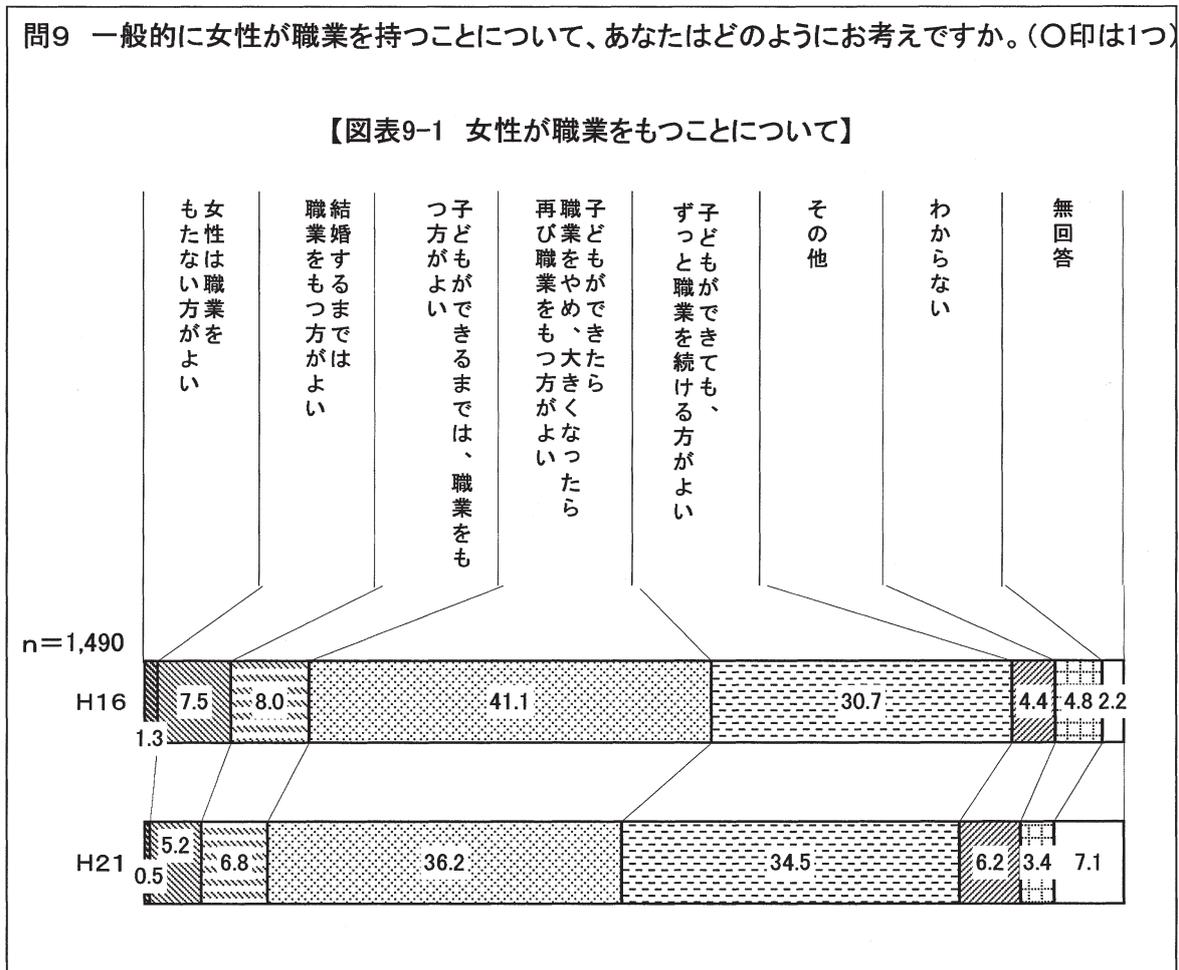


#### 4. 女性の就労について

##### (1) 女性が職業をもつことについての考え方



◆「子どもができて、ずっと職業を続ける方がいい」がH16調査に比べ増加

女性が職業をもつことについて、「子どもができれば、再び職業をもつ方がいい」が36.2%で最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がいい」(34.5%)、「子どもができるまでは、職業をもつ方がいい」(6.8%)の順となっている。

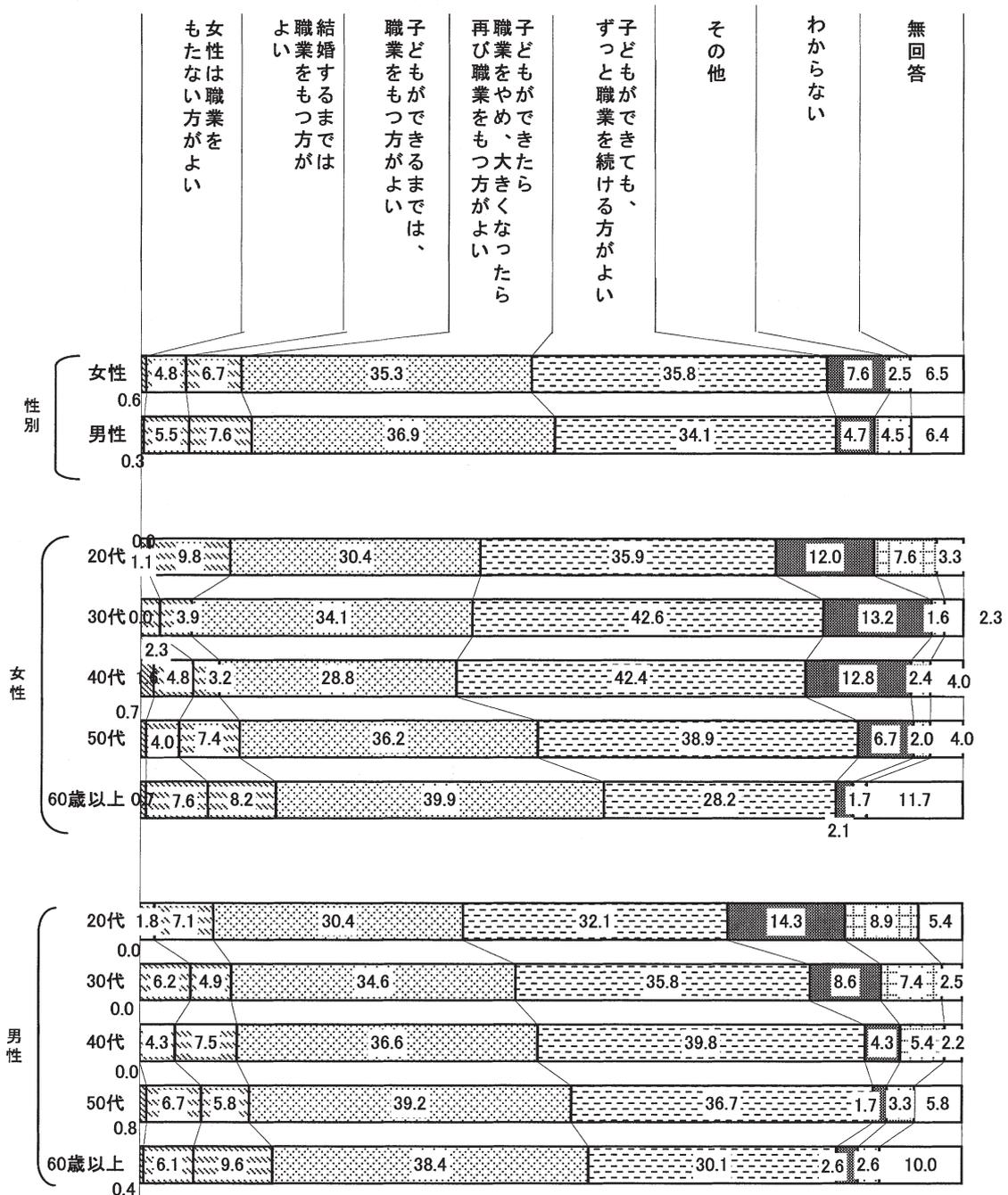
H16年調査と比べると、「子どもができれば、再び職業をもつ方がいい」が4.9ポイント低下する一方、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がいい」が3.8ポイント上昇した。

<性別、性・年齢別>

女性では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(35.8%)と、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(35.3%)がほぼ同数である。男性では、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(36.9%)が「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(34.1%)をわずかながら上回っている。

年齢別にみると、女性では60歳以上を除き、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を上回っている。男性も、20～40代では前者が後者を上回っている。

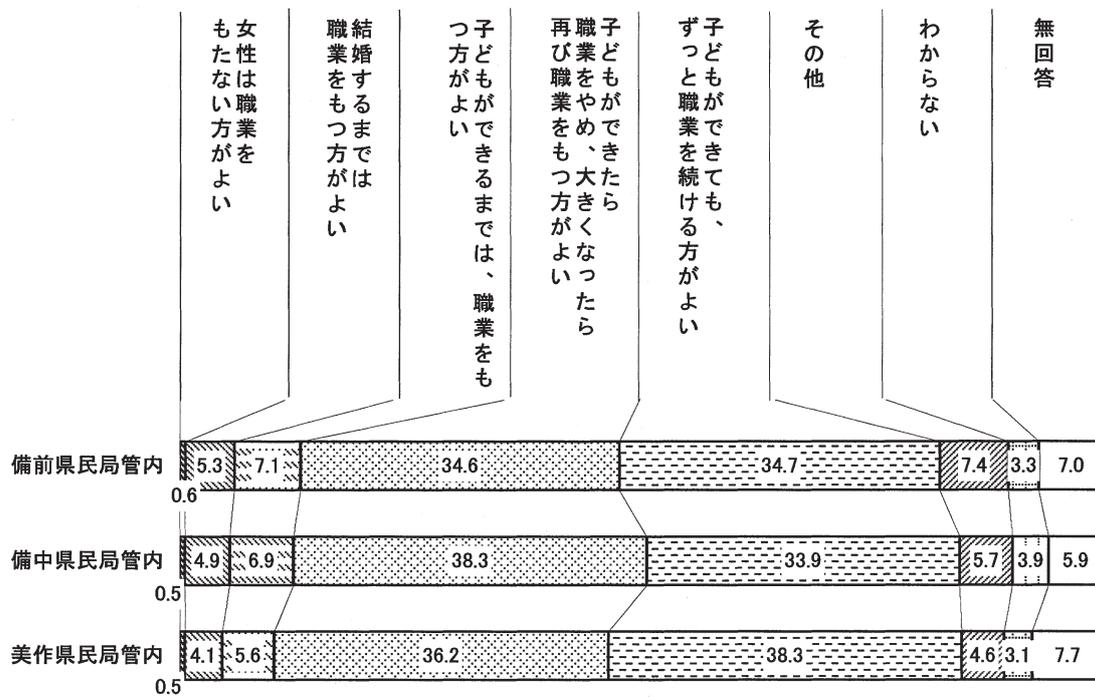
【図表9-2 女性が職業をもつことについて(性別、性・年齢別)】



<地域別>

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」についてみると、備前県民局管内はほぼ同数、備中県民局管内は後者が多く、美作県民局管内は前者がやや多くなっている。

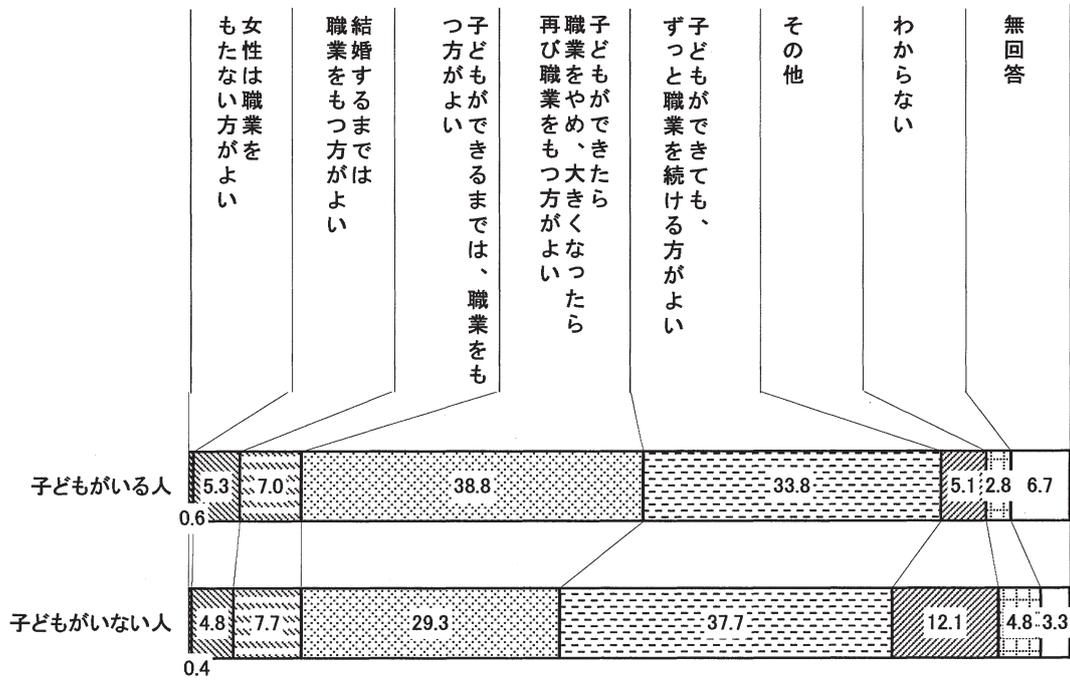
【図表9-3 女性が職業をもつことについて(地域別)】



<子どもの有無別>

「子どもがいる人」では、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が最も多い一方、「子どもがいない人」では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多くなっており、働き方の意識に差がある。

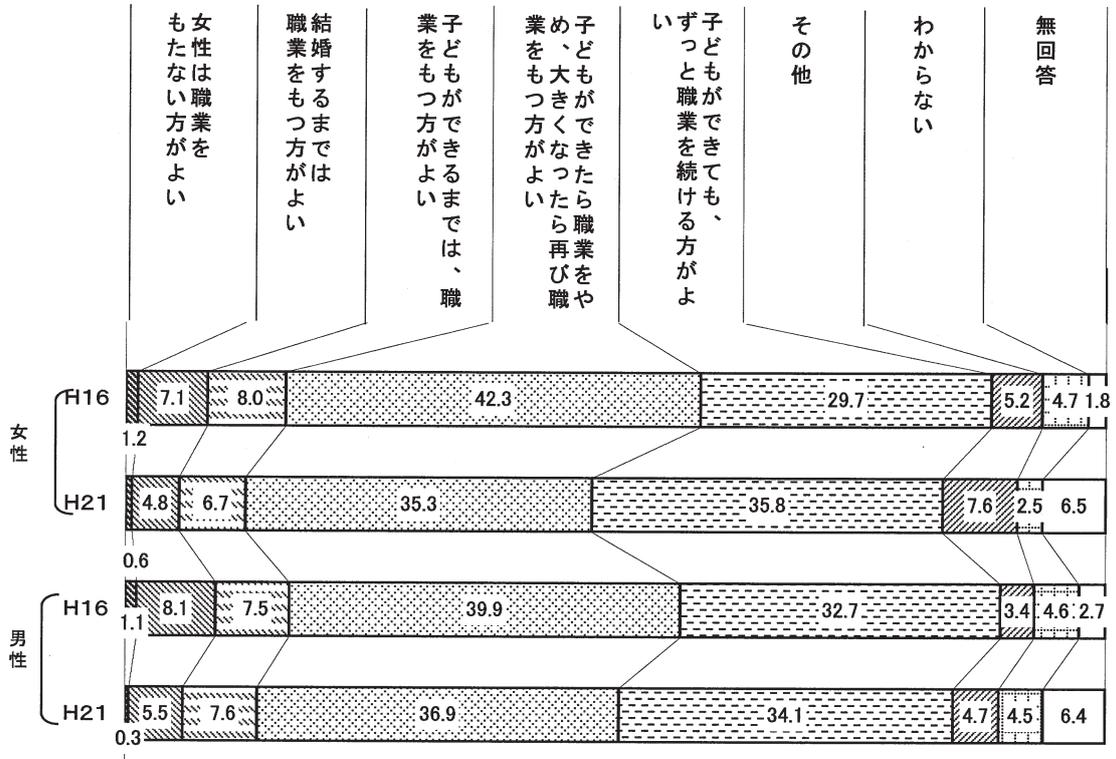
【図表9-4 女性が職業をもつことについて(子どもの有無別)】



<前回調査との比較>

前回調査と比較すると、男女ともに「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が減少する一方、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が増加している。

【図表9-6 女性が職業をもつことについて(性別、前回調査との比較)】

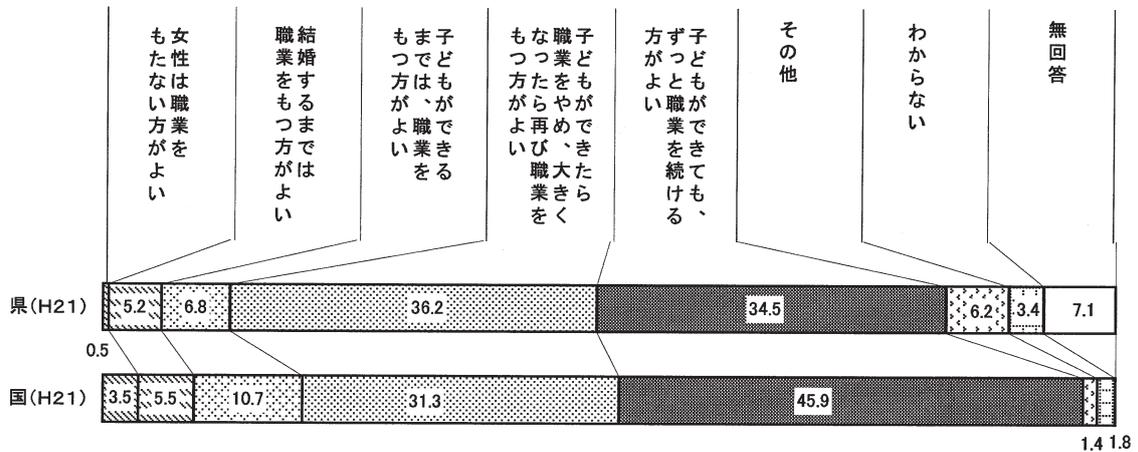


<国調査との比較>

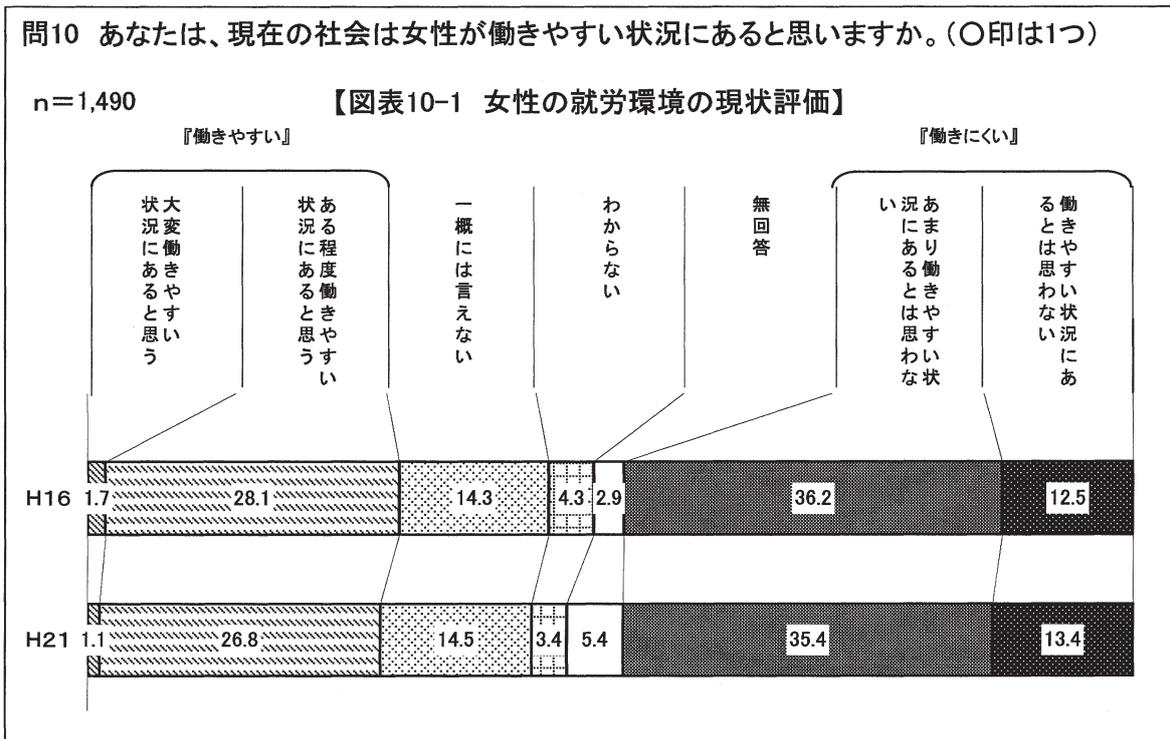
H21年の国の調査と比べると、国調査は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が45.9%で最も多く、県(34.5%)を11.4ポイント上回っている。

一方、県(H21)では、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が36.2%と最も多く、国調査を4.9ポイント上回っている。

【図表9-7 女性が職業をもつことについて(国調査と比較)】



## (2) 女性の就労環境の現状評価



### ◆「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」が最も多い

女性の就労環境について、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」が35.4%と最も多く、次いで、「ある程度働きやすい状況にあると思う」(26.8%)、「一概には言えない」(14.5%)、「働きやすい状況にあるとは思わない」(13.4%)の順となっている。

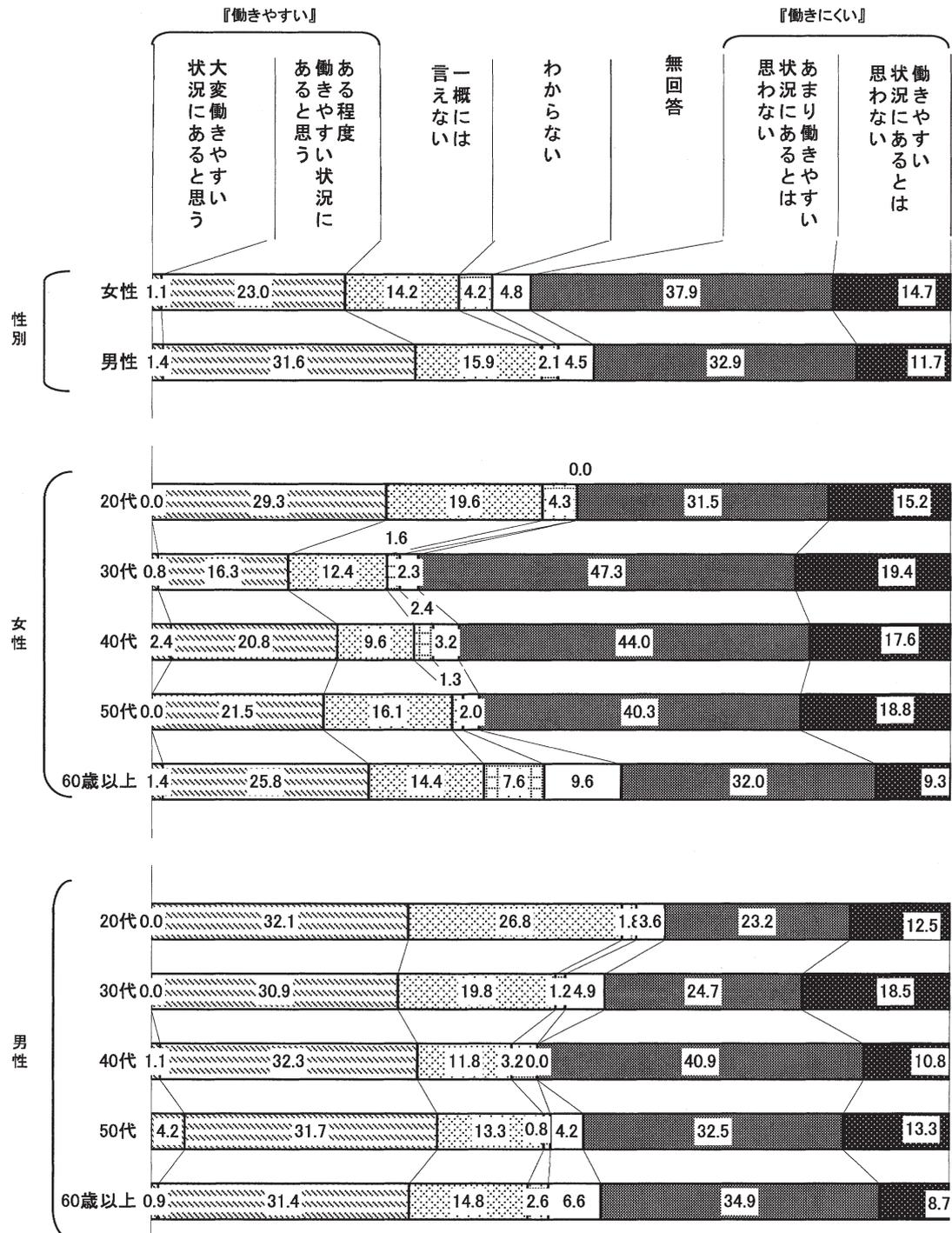
『働きやすい』(「大変働きやすい状況にあると思う」と「ある程度働きやすい状況にあると思う」を合わせた割合)は、前回に比べて1.9ポイント低下している。一方、『働きにくい』(「働きやすい状況にあるとは思わない」と「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」を合わせた割合)は、H16年に比べてほぼ横ばいとなっている。

<性別、性・年齢別>

女性では『働きにくい』が52.6%となっているが、男性は44.6%となっており、女性が8.0ポイント上回っている。

女性では、30代、40代、50代で『働きにくい』の割合が5割を超えている中、男性では、40代のみが5割を超えている。

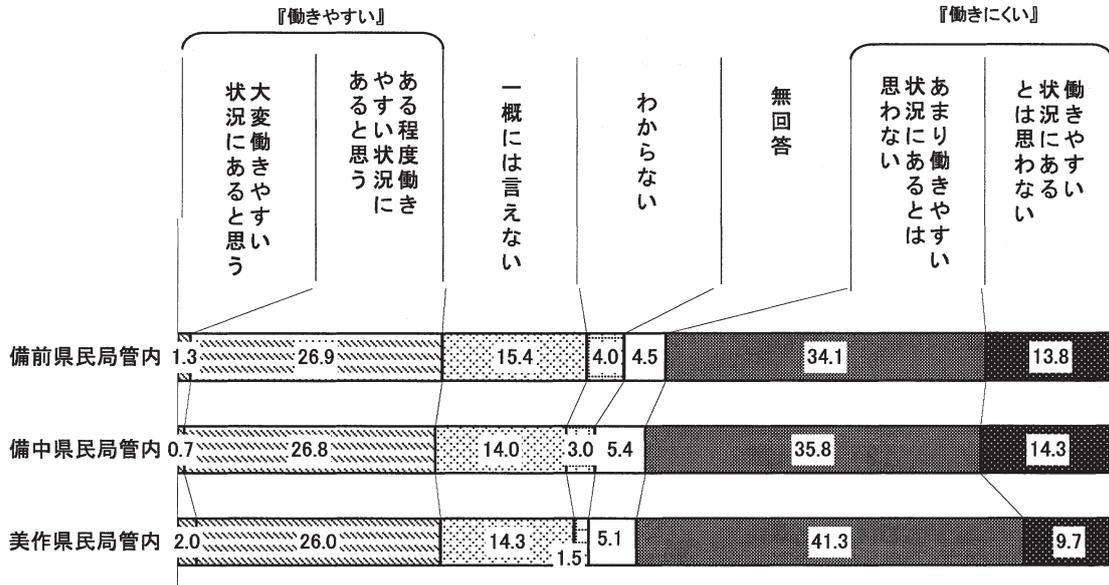
【図表10-2 女性の就労環境の現状評価(性別、性・年齢別)】



<地域別>

いずれの県民局管内も『働きにくい』が5割程度を占めている。

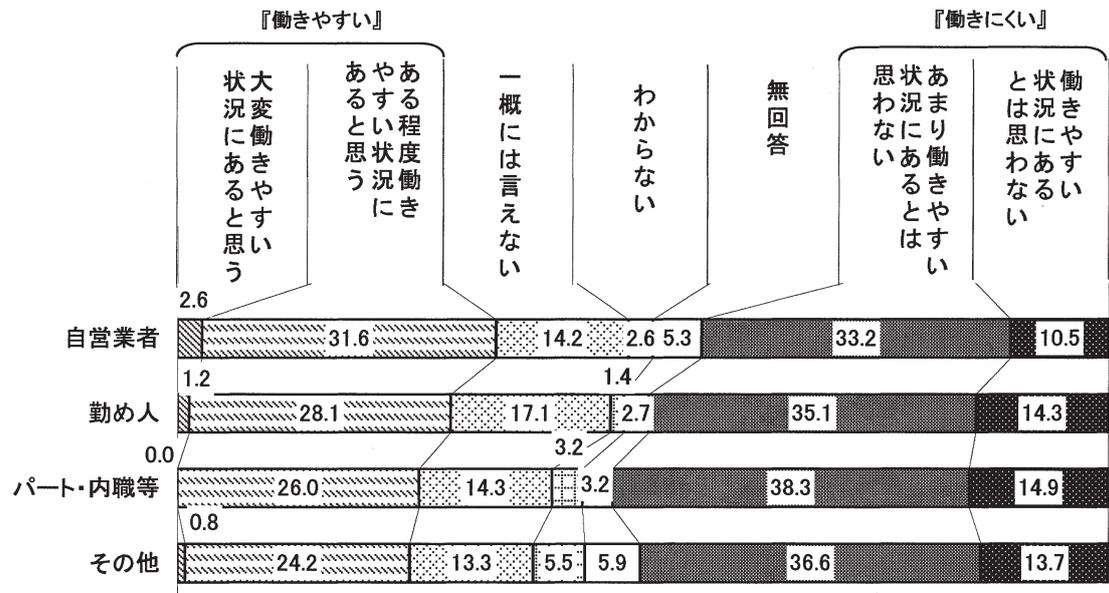
【図表10-3 女性の就労環境の現状評価(地域別)】



<職種別>

職種別に女性の働きやすさをみると、「パート・内職等」で『働きにくい』が53.2%と最も多くなっている。

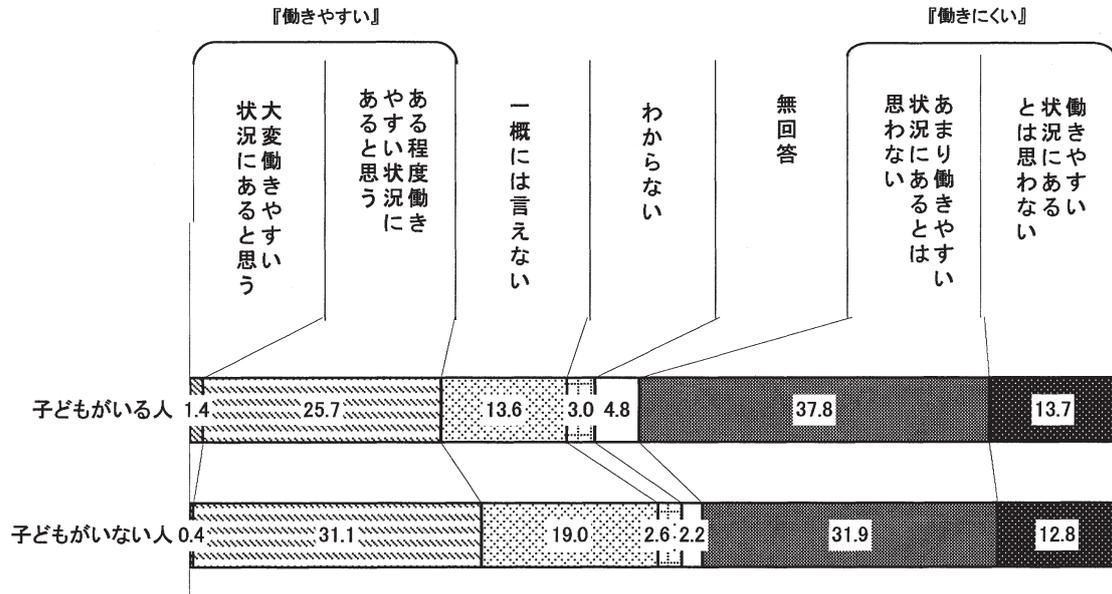
【図表10-4 女性の就労環境の現状評価(職種別)】



<子どもの有無別>

子どもの有無でみると、「子どもがいる人」では、『働きにくい』は51.5%となっているが、「子どもがいない人」では、44.7%となり、「子どもがいる人」が6.8ポイント上回っている。

【図表10-5 女性の就労環境の現状評価(子どもの有無別)】

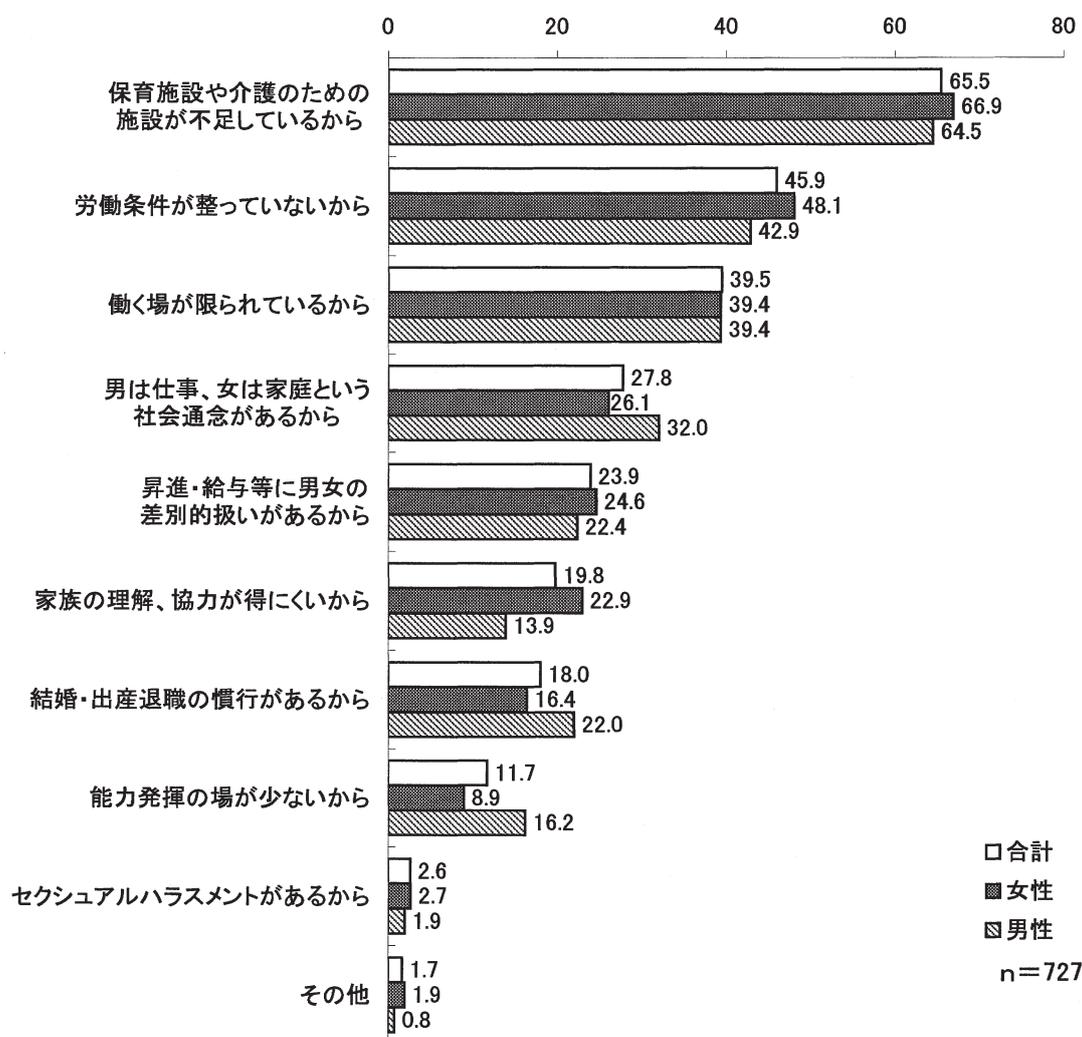


### (3) 女性が働きにくい理由

問10で「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」、または「働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた方のみお答えください

問11 そう思わない理由は何ですか。(○印は3つまで)

【図表11-1 女性が働きにくい理由】



◆「保育施設や介護のための施設が不足しているから」が6割超で最も多い

女性が働きにくい理由について、「保育施設や介護のための施設が不足しているから」が65.5%と最も多く、次いで「労働条件が整っていないから」(45.9%)、「働く場が限られているから」(39.5%)、「男は仕事、女は家庭という社会通念があるから」(27.8%)、「昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから」(23.9%)の順となっている。

性別にみると、男女ともに「保育施設や介護のための施設が不足しているから」が最も多くなっている。

<性・年齢別>

「保育施設や介護のための施設が不足しているから」がすべての年代で最も多くなっており、男性の20代では「労働条件が整っていないから」も最多となっている。

また、男女とも30代以上では「労働条件が整っていないから」、「働く場が限られているから」が2位、3位に入っており、20代女性では「昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから」が3位となっている。

【図表11-2 女性が働きにくい理由(性・年齢別)】

(単位:%)

		1位		2位		3位	
女性	20代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	67.4	労働条件が整っていないから	44.2	昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから	32.6
	30代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	65.5	労働条件が整っていないから	54.0	働く場が限られているから	36.8
	40代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	60.5	労働条件が整っていないから	47.4	働く場が限られているから	43.4
	50代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	64.0	労働条件が整っていないから	58.1	働く場が限られているから	34.9
	60歳以上	保育施設や介護のための施設が不足しているから	73.8	働く場が限られているから	45.1	労働条件が整っていないから	38.5
男性	20代	保育施設や介護のための施設が不足しているから 労働条件が整っていないから		40.0	働く場が限られているから	35.0	
	30代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	73.5	労働条件が整っていないから	50.0	働く場が限られているから	38.2
	40代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	62.5	労働条件が整っていないから	39.6	働く場が限られているから	35.4
	50代	保育施設や介護のための施設が不足しているから	63.6	労働条件が整っていないから	45.5	働く場が限られているから	40.0
	60歳以上	保育施設や介護のための施設が不足しているから	67.3	働く場が限られているから	42.6	労働条件が整っていないから	41.6

<地域別>

いずれの県民局管内でも「保育施設や介護のための施設が不足しているから」が最も多く、その他の項目も同様に差異はみられない。

図表11-3 女性が働きにくい理由【地域別】

(単位:%)

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	保育施設や介護のための施設が不足しているから	65.7	保育施設や介護のための施設が不足しているから	66.8	保育施設や介護のための施設が不足しているから	64.0
2位	労働条件が整っていないから	45.8	労働条件が整っていないから	47.7	労働条件が整っていないから	43.0
3位	働く場が限られているから	39.9	働く場が限られているから	37.2	働く場が限られているから	